

着果調整による雨よけトマトの秋期増収効果と盛夏期収穫作業の軽減

【成果の概要】

6段花房直下の主枝更新処理または6段花房上部の主枝更新処理により、高単価時である9～10月の商品果収量が増加し、総商品果収量は慣行とほぼ同等となります。

これらの着果調整により、8月盛夏時の総収量を抑制することが可能となり、盛夏期の収穫作業を軽減できます。

【技術の導入効果】

1 9～10月の商品果収量

6段花房直下の主枝更新処理では慣行対比17%、6段花房上部の主枝更新処理では同15%増加し、所得向上につながります(図1)。

2 盛夏期の収穫量抑制

上記の処理により、8月10日～19日の10日間における総収穫果重量は、慣行対比の半分程度に抑制できます。このことにより、盛夏期の作業負担が軽減され、ゆとりある生活実現が可能となります(図2)。

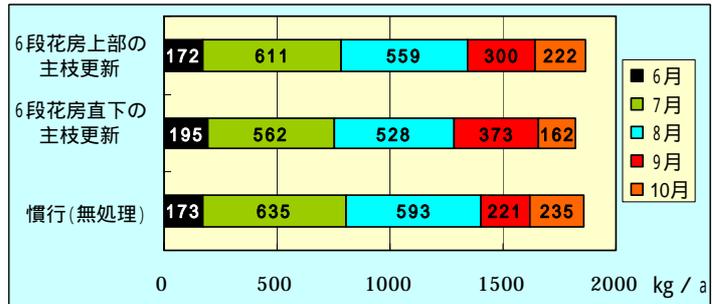


図1 月別商品果収量の推移

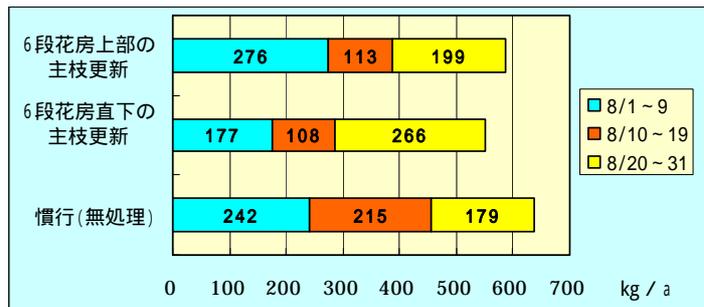


図2 8月の期間別総収穫量の推移

【着果調整の方法】

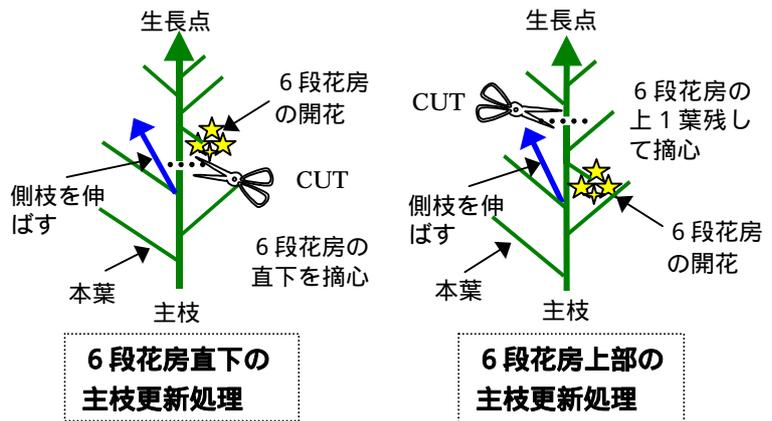
右図を参考に、以下の要領で行います。

6段花房直下の主枝更新処理

花房直下の側枝発生を確認した上で、花房ごと主枝を切断します。

6段花房上部の主枝更新処理

花房直下の側枝発生を確認した上で、処理花房の上1枚の本葉を残して主枝を摘芯します。



【留意事項】

- 4月下旬定植の長段収穫栽培において、「桃太郎8」を供試した場合に適用されます。
- 主枝更新処理は、処理後の草勢が弱くなりやすい傾向が認められます。そのため、処理前から追肥等による草勢維持に努めるとともに、処理後も適正な草勢を維持するよう肥培管理に留意しましょう。
- 本成果における着果調整技術の処理時期は6月20日です。処理後の気象条件により盛夏期の収穫ピークが前後することも考えられます。